

歴史の大地に立つて

地本結成15周年 ポーランド平和研修を開催!

JR東海労新幹線関西地方本部は、結成15周年記念ポーランド平和研修を2010年5月25日から30日にかけて、組合員・家族など26名の参加のもとに開催しました。今回の平和研修では、ポーランドの「グディニア」「ワルシャワ」「クラクフ」「アウシュヴィッツ」「ビルケナウ」という地を訪れました。

1939年9月1日、ヒトラーひきいるナチス・ドイツ軍がポーランド侵攻を開始します。そして同年9月3日、ポーランドと同盟をむすんでいたイギリス・フランスがドイツに宣戦布告をし、第二次世界大戦が勃発しました。この大戦さなかにナチス・ドイツ軍はアウシュヴィッツ・ビルケナウで収容所（絶滅・労働収容所）を建設し、ユダヤ人をはじめ250万を超える人々が虐殺されたといわれています。

アウシュヴィッツ収容所の入り口の正門には「働けば自由になる」という意味の文字が掲げられています。収容所に入ると、多くの義足、義手、眼鏡、髪の毛、子供の衣類、靴等々が展示されていました。これらを見ていると、貨車に押し込まれ収容所へ連れてこられてシャワーを浴びると騙されガス室で殺害されたことなど、胸が締め付けられる思いがします。悲惨な過去に対して、死の壁（多くの被収容者がこの壁の前で銃殺刑に処された）といわれる場所に献花を行いました。

私たちは過去の歴史から学び、労働者として平和な世の中をつくりだしていかなければなりません。最後に、ポーランド平和研修に際して支えていただきました組合員の皆さんに感謝を申し上げます。（ポーランド平和研修参加者の投稿より）



収容所まで延びる鉄道引き込み線にて

